

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月20日

京都府知事 殿



提出者

住 所 大阪府大阪市中央区高麗橋4丁目1-1

氏 名 東洋建設株式会社 大阪本店

常務執行役員本店長 小玉 友彦

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 06-6209-8765

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東洋建設株式会社 大阪本店 管轄 京都府内の工事現場
事業場の所在地	京都府内
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06 総合工事業
②事業の規模	21,779百万円
③従業員数	199人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別添1 処理工程図のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) 別添2 管理体制図のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	排 出 量	4721 t	40 t
	（これまでに実施した取組） ・梱包材の簡略化、メーカー持ち帰り。 ・仮設材の再利用。 ・既設改修、新設構造物に対する免震化工法を採用した建設物の長寿命化。 ・耐久性、耐震性診断システムの活用。 ・高強度コンクリートの製造、施工、品質管理手法の確立。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	排 出 量	3800 t	30 t
	（今後実施する予定の取組） ・現状を維持する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・有価物及びがれき類（コンクリート塊、アスファルト塊）、木くず等は分別し品目ごとに保管。 保管コンテナには、飛散や不法投入防止のためにネットを設置。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・工事ごとに分別回収できる種類を検討し、実施する。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
18 t	19 t	3237 t	1864 t
【目標】			
建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
15 t	15 t	2500 t	1500 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
46 t	118 t	— t	— t
【目標】			
アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
30 t	10 t	— t	— t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	－ t	－ t
	（これまでに実施した取組）・特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	－ t	－ t
	（今後実施する予定の取組）・実施予定なし。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	－ t	－ t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	－ t	－ t
	（これまでに実施した取組）・特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	－ t	－ t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	－ t	－ t
	（今後実施する予定の取組）・実施予定なし。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】

建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
－ t	－ t	－ t	－ t

【目標】

建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
－ t	－ t	－ t	－ t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】

建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
－ t	－ t	－ t	－ t
－ t	－ t	－ t	－ t

【目標】

建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
－ t	－ t	－ t	－ t
－ t	－ t	－ t	－ t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】

アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
— t	— t	— t	— t

【目標】

アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
— t	— t	— t	— t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】

アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
— t	— t	— t	— t
— t	— t	— t	— t

【目標】

アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
— t	— t	— t	— t
— t	— t	— t	— t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	－ t	－ t
	(これまでに実施した取組)・特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	－ t	－ t
	(今後実施する予定の取組)・実施予定なし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	全処理委託量	4721 t	40 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	33 t
	再生利用業者への 処理委託量	4721 t	40 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	－ t	－ t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	－ t	－ t
	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物の委託処理事業に対する検討を行う。 ・委託契約は、法令を遵守し、適正な処理を行い、再資源化率の高い業者を優先的に行う。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
－ t	－ t	－ t	－ t
【目標】			
建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
－ t	－ t	－ t	－ t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
18 t	19 t	3237 t	1864 t
3 t	19 t	12 t	295 t
18 t	19 t	3237 t	1864 t
－ t	－ t	－ t	－ t
－ t	－ t	－ t	－ t

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】

アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
— t	— t	— t	— t

【目標】

アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
— t	— t	— t	— t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】

アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
46 t	118 t	— t	— t
0 t	11 t	— t	— t
46 t	118 t	— t	— t
— t	— t	— t	— t
— t	— t	— t	— t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	全 処 理 委 託 量	3800 t	30 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	30 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	3800 t	30 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	－ t	－ t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	－ t	－ t
	(今後実施する予定の取組) ・産業廃棄物の委託処理業者は、可能な限り優良認定処理業者から選定する。 ・再生利用、熱回収が可能である廃棄物については、再生利用業者、熱回収業者へ可能な限り処理委託する。		
※事務処理欄			

(第5面)

【目標】			
建設工事の木くず	ガラスくず、コンクリートくず	がれき類	コンクリート破片
15 t	15 t	2500 t	1500 t
15 t	15 t	1000 t	500 t
15 t	15 t	2500 t	1500 t
－ t	－ t	－ t	－ t
－ t	－ t	－ t	－ t

【目標】			
アスコン破片	管理型建設混合廃棄物	—	—
30 t	10 t	— t	— t
0 t	10 t	— t	— t
30 t	10 t	— t	0 t
— t	— t	— t	— t
— t	— t	— t	— t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

集計用シート 前年度【 令和6年度】実 績

提 出 者						
住 所	名 称	担当部署	担当省名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の名称	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
大阪府大阪市中央区高麗橋4丁目1番1号	東洋建設株式会社 大阪本店	安全環境部	尾形 明子	06-6209-8765	06-6209-8886	ozata-shiko@toy-const.co.jp

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

産業廃棄物の種類		計 画 の 実 施 状 況																	
コード	名 称	①排出量	②自ら直接再生利用した量	③自己直接埋立処分又は海洋投入処分した量	④自ら中間処理した量	⑤④のうち熱回収を行った量	⑥自ら中間処理した後の残存量	⑦自ら中間処理により減量した量	⑧自ら中間処理した後再生利用した量	⑨自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	⑩直接及び自ら自己処理した後の処理委託量	⑪＝①－②－③－④－⑤－⑥－⑦＝⑪＋⑫＋⑬＋⑭＋⑮						⑯＋⑰	⑱＋⑲
		(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	⑫再生利用業者への処理委託量 (t)	⑬熱回収認定業者への処理委託量 (t)	⑭熱回収認定業者以外の熱回収業者への処理委託量 (t)	⑮その他の中間処理委託量 (t)	⑯埋立処分委託量 (t)	⑰優良認定処理業者への処理委託量 (t)	⑱自ら再生利用を行った量 (t)	⑲自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量 (t)
コード参照	産業廃棄物の種類	発生した産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量	①の量のうち、中間処理をせず自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	①の量のうち、自ら中間処理した産業廃棄物の当該中間処理前の量	④の量のうち熱回収を行った量	自ら中間処理を行った後の量	④の量から⑥の量を差し引いた量	⑧の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量	⑨の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量	中間処理及び最終処分を委託した量	⑪の量のうち、処理業者への再生利用委託量 (⑫、⑬除く)	⑭の量のうち、認定熱回収施設設置者である処理業者への焼却処理委託量	⑮の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量	⑯の量のうち、委託して破砕等の中間処理した量 (⑰～⑱を除く)	⑰の量のうち、直接委託して埋立て最終処分した量	⑰の量のうち、優良認定処理業者への委託処理量	⑱の量と⑲の量を合計したもの(自動計算)	⑲の量と⑳の量を合計したもの(自動計算)
1	200 汚泥	4,721						0			4,721	4,721					0	0	0
2	600 廃プラスチック	40						0			40	40					33	0	0
3	810 建設工事の木くず	18						0			18	18					3	0	0
4	1300 ガラスくず、コンクリートくず	19						0			19	19					19	0	0
5	1500 がれき類	3,237						0			3,237	3,237					12	0	0
6	1501 コンクリート破片	1,864						0			1,864	1,864					295	0	0
7	1502 アスコン破片	46						0			46	46					0	0	0
8	2020 管理型建設混合廃棄物	118						0			118	118					11	0	0
9								0										0	0
10								0										0	0
11								0										0	0
12								0			0							0	0
13								0			0							0	0
14								0			0							0	0
15								0			0							0	0
16								0			0							0	0
17								0			0							0	0
18								0			0							0	0
19								0			0							0	0
20								0			0							0	0
合計		10,063.0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,063	10,063.0	0	0	0	0	373	0	0

集計用シート 今年度【 令和 7 年度】目 標

提 出 者		者				
住 所	名 称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の名称	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
大阪府大阪市中央区高麗橋4丁目1番1号	東洋建設株式会社 大阪本店	安全環境部	尾形 明子	06-6209-8765	06-6209-8888	ogata-akiko@toyo-const.co.jp

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

産業廃棄物の種類		計 画 の 実 施 状 況															②+⑧ 自ら再生利用を 行った量 (t)		③+⑨ 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を 行った量 (t)	
		①排出量 (t)	②自ら直接再生利 用した量 (t)	③自己直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量 (t)	④自ら中間処理し た量 (t)	⑤④のうち熱回収 を行った量 (t)	⑥自ら中間処理した 後の残さ量 (t)	⑦自ら中間処理し た後再生利用した 量 (t)	⑧自ら中間処理し た後自ら埋立処分 又は海洋投入処分 した量 (t)	⑨直接及び自ら自己 処理した後の処理委 託量 (t)	委託先による区分 (⑩=①-②-③-④+⑤-⑥-⑦=⑩+⑪+⑬+⑮)					⑩再生利用者への 処理委託量 (t)				
コード	名 称											⑩の量のうち、処理業者 への再生利用委託量 (⑩、⑫除く)	⑩の量のうち、認定熱回収施設 設置者である処理業者へ の焼却処理委託量	⑫の量のうち、認定熱回収施設設置者以 外の熱回収を行っている処理業者への焼 却処理委託量	⑬の量のうち、委託 して破砕等の中間 処理した量(⑬～⑭ を除く)	⑭の量のうち、直接 委託して埋立て最 終処分した量	⑮の量のうち、優良 認定処理業者への 委託処理量			
コード参照	産業廃棄物の種類	発生した産業廃棄物の 種類ごとの量	①の量のうち、中間 処理をせず直接自ら 再生利用した量	①の量のうち、中間 処理をせず自ら埋立 処分又は海洋投入 処分した量	①の量のうち、自ら 中間処理した産業 廃棄物の当該中間 処理前の量	④の量のうち熱回収 を行った量	自ら中間処理を行っ た後の量	④の量から⑤の量 を差し引いた量	⑤の量のうち、自ら 売却した量	⑥の量のうち、自ら 埋立処分及び海洋 投入処分した量	中間処理及び最終処 分を委託した量	⑩の量のうち、処理業者 への再生利用委託量 (⑩、⑫除く)	⑩の量のうち、認定熱回収施設 設置者である処理業者へ の焼却処理委託量	⑫の量のうち、認定熱回収施設設置者以 外の熱回収を行っている処理業者への焼 却処理委託量	⑬の量のうち、委託 して破砕等の中間 処理した量(⑬～⑭ を除く)	⑭の量のうち、直接 委託して埋立て最 終処分した量	⑮の量のうち、優良 認定処理業者への 委託処理量	②の量と⑧の量を 合計したもの(自動 計算)	③の量と⑨の量を 合計したもの(自動 計算)	
1	200 汚泥	3,800						0			3,800	3,800					0	0	0	
2	600 廃プラスチック	30						0			30	30					30	0	0	
3	810 建設工事の木くず	15						0			15	15					15	0	0	
4	1300 ガラスくず、コンクリートくず	15						0			15	15					15	0	0	
5	1500 がれき類	2,500						0			2,500	2,500					1,000	0	0	
6	1501 コンクリート破片	1,500						0			1,500	1,500					500	0	0	
7	1502 アスコン破片	30						0			30	30					0	0	0	
8	2020 管理型建設混合廃棄物	10						0			10	10					10	0	0	
9								0										0	0	
10								0			0	0						0	0	
11								0			0							0	0	
12								0			0							0	0	
13								0			0							0	0	
14								0			0							0	0	
15								0			0							0	0	
16								0			0							0	0	
17								0			0							0	0	
18								0			0							0	0	
19								0			0							0	0	
20								0			0							0	0	
合計		7,900	0	0	0	0	0	0	0	0	7,900	7,900	0	0	0	0	1,570	0	0	

別添 1 処理工程図

○ 新築・解体工事

- ・ 廃プラスチック類
再生処理業者に委託し、RPF（固形燃料）や再生原料として再資源化。
- ・ 木くず
再生処理業者に委託し、チップ（燃料用、原料用）として再資源化。
- ・ ガラスくず等
再生処理業者に委託し、一部を再生原料等として再資源化、残りを最終処分（埋立、焼却）。
- ・ がれき類（コンクリート塊）
再生処理業者に委託し、再生砕石として再資源化。
- ・ 建設系混合廃棄物
再生処理業者に委託し、一部を再生原料等として再資源化、残りを最終処分（埋立、焼却）。

○ 推進工事、地盤改良工事

- ・ 汚泥
再生処理業者に委託し、セメント原料や建設用資材として再資源化。

○ 道路工事

- ・ がれき類（アスファルト・コンクリート塊）
再生処理業者に委託し、再生骨材として再資源化。

○ 港湾工事

- ・ がれき類（コンクリート塊）
再生処理業者に委託し、再生砕石として再資源化。
- ・ 建設系混合廃棄物
再生処理業者に委託し、一部を再生原料等として再資源化、残りを最終処分（埋立、焼却）。

別添2 管理体制図

